

全老連

2025. **2** 第526号



第53回 全国老人クラブ大会報告号

令和6年11月20日・21日の2日間、神奈川県老人クラブ連合会、川崎市老人クラブ連合会と共同主催にて、第53回全国老人クラブ大会を開催しました。1日目は活動発表、2日目は講演、式典を行いました。

大会概要

令和6年度の全国老人クラブ大会は、神奈川県老人クラブ連合会、川崎市老人クラブ連合会と共同主催で横浜港を望む神奈川県民ホールで、11月20日(水)、21日(木)の2日間にわたり開催されました。

この会場で全国大会を開催するのは2回目、前回は横浜ベイブリッジが開通した平成元年(1989年)に、横浜市老人クラブ連合会と共同主催で第18回全国老人クラブ大会を開催しました。

大会第1日目は、今年一番の冷え込みの中、雨も降るあいにくの天気となりましたが、それでも全国から1,254名のリーダーが集まり、会場は熱い熱気に包まれました。

◆第1日(20日)——活動発表

大会初日は、「地域の仲間と取り組む老人クラブ活動」をテーマに、3名の発表者が用意してきた資料を壇上の大きなスクリーンに投影しながら活動紹介を行いました。

◆第2日(21日)——講演・式典

2日目は、オープニングを兼ねてビッグバンドによるジャズ演奏で始まりました。神奈川県(横須賀市)はジャズ発祥の地とも呼ばれることから、地元で活躍している平均年齢70歳のビッグバンド「コン・アミーゴス」の演奏で始まりました。

続いて、「健康寿命の延伸と栄養・食事」をテーマに、地元神奈川県立保健福祉大学名誉学長である中村丁次氏による講演が行われ、参加者は食い入るように聞いていました。

休憩をはさんで「式典」が開催され、安藤正義神奈川県老連理事長の挨拶ではじまり、老人クラブの物故者に対して黙祷が捧げられました。

全老連村木厚子会長の挨拶の後に行われた、全老連会長表彰は、今年度から育成功労表彰に女性

リーダーと若手リーダー、それぞれに対する育成功労表彰が加わり多くの方が表彰されました。そして、川崎市老連久保恵美子女性委員長が宣言朗読を読み上げ、次回大会開催地より茨城県老連坂本鉄夫会長が挨拶を行い、全老連副会長・東京都老連村上光夫会長の閉会の言葉で、大会を終了しました。



大会—第2日プログラム【講演、式典】

(敬省略)

11月21日(木曜日) 9:30～12:10

司会：岡村 帆奈美 (テレビ神奈川)

アトラクション ビッグバンド「コン・アミーゴス」



【講演】

「健康寿命の延伸と栄養・食事」

神奈川県立保健福祉大学名誉教授 中村 丁次

【式典】

歓迎の言葉 神奈川県老人クラブ連合会理事長 安藤 正義

国歌 斉唱

黙 禱

挨拶 全国老人クラブ連合会会長 村木 厚子

表彰 全国老人クラブ連合会会長表彰

育成功労表彰 代表 神奈川県 中村 多美枝

女性リーダー育成功労表彰 代表 静岡県 渥美 みつ

若手リーダー育成功労表彰 代表 長野県 武田 和雄

優良老人クラブ表彰 代表 川崎市登戸南町福寿クラブ

優良郡市区町村老人クラブ連合会表彰

代表 横浜市神奈川区シニアクラブ連合会

永年勤続表彰 代表 沖縄県 爾保 充孝

祝 辞 厚生労働大臣 福岡 資麿

神奈川県副知事 首藤 健治

川崎市副市長 三田村 有也

宣言朗読 川崎市老人クラブ連合会女性委員長 久保 恵美子

次回大会挨拶 茨城県老人クラブ連合会会長 坂本 鉄夫

閉会の言葉 全国老人クラブ連合会副会長 東京都老人クラブ連合会会長 村上 光夫



ビッグバンド演奏



宣言朗読



育成功労表彰



女性リーダー育成功労表彰



若手リーダー育成功労表彰



優良老人クラブ表彰



優良郡市区町村老人クラブ連合会表彰



永年勤続表彰



次回大会報告（茨城県老連）



閉会挨拶



宣 言

わが国は、少子高齢化・人口減少が急速に進み、団塊の世代が75歳を迎える2025年を目前に控えて、本格的な超高齢社会を迎えています。

こうしたなか、誰もが住み慣れた地域で、生きがいをもって暮らし、共に支え合う「地域共生社会」の実現に向けた取り組みが進められています。

さらに、今年、孤独や孤立に悩む人を誰ひとり取り残さない社会づくりを目指した「孤独・孤立対策推進法」と、認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って地域で暮らすことを目的にした「認知症基本法」が施行されました。

こうした社会目標は、私たち老人クラブの活動と軌を一にするものといえます。振り返ると、私たちは、戦後一貫して地域での支え合いを主体的に行い、多彩な活動を展開して、時に喜びを分かち合い、時に災害など困難を共に乗り越えてきました。それゆえ、これまで取り組んできた仲間づくりや支え合いの活動実践に誇りを持ち、これを活かして、孤独・孤立の防止、認知症の正しい知識・理解の普及などに地域の関係団体等と連携・協働して一層推進することに努めてまいります。

また、今年1月1日に発生した能登半島地震においては、全国の仲間からたくさんの方々の友愛の心が寄せられました。今、高齢化の著しい被災地で、我々の仲間や多くの高齢者が頑張っています。毎年のように繰り返される災害を乗り越え、復興の一助とするために、私たち老人クラブの日頃の仲間づくりや地域との幅広いつながりを大切に育んでいきましょう。

四季折々の自然と歴史、都市文化の共存する神奈川県に集う全国の老人クラブ関係者は、「のぼそう！健康寿命、担おう！地域づくりを」のメインテーマのもとに、次の重要事項の実践を、今後とも展開していくことを誓い、ここに宣言いたします。

- 一、健康長寿をめざす「健康活動」の推進
- 一、暮らしを見守る「支え合い活動」の展開
- 一、高齢期を豊かにする「生きがい活動」の充実
- 一、あらゆる世代と連携した「地域貢献活動」の推進
- 一、すべての人々の尊厳が守られる「社会保障制度」の確立

令和6年11月21日

第53回 全国老人クラブ大会

挨拶

公益財団法人 全国老人クラブ連合会 会長 村木 厚子



第53回全国老人クラブ大会を神奈川県老人クラブ連合会並びに川崎市老人クラブ連合会と共に開催するにあたり、主催者を代表してご挨拶を申し上げます。

近年は自然災害が毎年のように発生しておりますが、本年元旦の夕刻、家族との団らの時間をお過ごしになられていた方がたも多い時間帯に、能登地方を震源とする地震が発生し、石川県をはじめ富山県、福井県、新潟県と広範囲にわたり甚大な被害を及ぼしました。その後9月には、復興に向けて取り組みを進めていた能登地方を豪雨が襲い、再び大きな被害をもたらしました。犠牲となられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災されたすべての皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

全国老人クラブ連合会では、この地震災害に対し、被災地の高齢者の方々への励ましと、老人クラブ及び老人クラブ連合会の支援を行うべく、都道府県・指定都市老人クラブ連合会のご協力を得て、全国の老人クラブ会員の皆様に救援拠金の呼びかけを行いましたところ、総額2億1,500万円を超える浄財をお寄せいただきました。

この場をお借りし、改めて厚く御礼を申し上げます。

さて今年、「地域共生社会」を大きく前進させる「孤独・孤立対策推進法」と「認知症基本法」の二つの法律が施行されました。

「孤独・孤立対策推進法」は、孤独・孤立に悩む人を誰ひとり取り残さず、相互に支え合い、人と人との「つながり」が生まれる社会づくりを目指し、国や地方公共団体の責務、国民の理解や協力などを記したものです。孤独・孤立対策はまさしくこれまで、仲間づくりや支え合いの活動をとおして老人クラブが担ってきたところであり、今後、こうした活動を地域の多様な関係者と共に、さらに広く展開していくことが求められます。

また、「認知症基本法」は、認知症の人が尊厳を保持しつつ、希望を持って暮らすことができるよう、認知症や認知症の人に対する正しい知識や理解の普及、認知症の人の意見表明や社会参加の機会の確保など、認知症施策を総合的かつ計画的に推進することを目的としています。

地域の中で、認知症の人やその家族を支える仕組みをどのように作りあげていくか。老人クラブ活動を通じて情報提供に努め、地域の人々の理解と協力を得ていくことが必要です。

昨日の活動発表では、「地域の仲間と取り組む老人クラブ活動」をテーマに、神奈川県、川崎市、奈良県から3つの活動事例をご紹介いただきました。いずれも日頃の活動を自治会・町内会や社会福祉協議会、地域包括支援センターなど、地域の関係者と連携して取り組むことが、活動の幅を広げ、効果を高めていることを示したご発表でした。

今後も、全国の老人クラブのメインテーマ「のぼそう！健康寿命、担おう！地域づくりを」のもと、皆様と共に誰もが輝くことができる「地域共生社会」の実現に向け、歩みを進めてまいりたいと存じます。

祝辞厚生労働大臣 福岡 たかまろ 資麿

本日、第53回全国老人クラブ大会が開催されることを心からお慶び申し上げます。

また、主催者である「全国老人クラブ連合会」及び「神奈川県老人クラブ連合会」、「川崎市老人クラブ連合会」並びに開催に当たりご尽力いただいた皆様に対し、心から敬意を表します。

我が国では、長寿化の進展により「人生100年時代」を迎える一方、少子高齢化や人口減少といった課題に直面しています。

このような状況下でも、高齢者をはじめ多くの人々が、つながり・互いに支え合い、生きがいを感じながら、未来に希望を持ち、健康で安心して暮らし続けられる地域共生社会づくりが求められています。

今年のテーマである「のぼそう！健康寿命、担おう！地域づくりを」と「地域の仲間と取り組むクラブ活動」は、地域で暮らす一人ひとりがどのようにして生きがいを持ち、社会参加をしていくかという課題に真正面から向き合うものであり、大変意義深いものと感じております。

また、老人クラブの皆様には、地域共生社会の実現に向けた基盤として、全国各地で、高齢者の自発的な生きがいづくりや健康づくり、社会参加を目的として、体操やスポーツ、ボランティアといった活動に積極的に取り組んでいただいております。長寿化が進展している日本で、これらの活動はより一層大きな期待が向けられているところです。

引き続き、皆様の豊かな知識や経験を生かしながら、このような活動がさらに活発に行われますことを期待しております。

結びになりますが、大会にお集まりいただいた皆様のご健勝とご活躍をお祈りいたしまして、私の祝辞といたします。

祝辞 (敬称略)

神奈川県副知事 首藤 健治



今大会のメインテーマは「のぼそう！健康寿命、担おう！地域づくりを」となっています。神奈川県では超高齢社会が到来し、人生 100 歳時代を迎える中、高齢者の皆さまの命が輝き、健康寿命を延ばし、いつまでも笑顔で過ごすことができるよう、未病改善の取り組みを進めております。

未病とは、健康と病気との連続的に変化する状態のことで、食、運動、社会参加の取り組みが重要で、老人クラブの皆さまが普段から行っている友愛活動や健康づくり活動、生きがいづくり活動などにより、高齢者の社会参加が大きく促進をされます。

神奈川県では、平成 28 年に県立の障害者支援施設である津久井やまゆり園において、大変痛ましい事件が起きました。こうした事件を二度繰り返してはならないという強い決意の下、県議会とともに「ともに生きる社会かながわ憲章」を策定いたしまして、その理念の普及に取り組んでおります。

また、「当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を目指して～」を、令和 5 年 4 月 1 日に施行いたしました。当事者の目線に立つという考え方は、障害者のみならず、高齢者や子どもなど、全ての支援において同様に重要であると考えております。

高齢者の目線に立った老人クラブの活動は、高齢者のみならず、地域共生社会の実現の一翼を担い、また高齢者の社会参加を促進し、健康寿命の延伸につながるものであり、超高齢社会を乗り越えるための皆さま方のご尽力は非常に重要であると考えております。今後も活発な活動を通じたお力添えをぜひともよろしく願いをいたします。

川崎市副市長 三田村 有也



5 年に 1 度、都道府県別の平均寿命、長寿のランキングが統計データということで報告されております。昨年公表されたものでは、男性の長寿の日本一は滋賀県、女性は岡山県ということでしたが、同じ時期に、同じ統計データの中で市区町村別の長寿のデータが出ています。

昨年度は川崎市の麻生区というところ、場所がいいと川崎の北部になりますが、小田急線の新百合ヶ丘駅が中心にありまして、隣は町田市や多摩市、稲城市などと接している、東京という多摩地区に接している地域が、男性も女性も長寿 1 位ということで発表されました。同じ地区で男女 1 位がそろったのは、これまでで初めてということでした。

これが理由だろうというのは分からないのですが、麻生区の特徴としては、緑や広い公園が多いこと、そして山坂もあって、そうした環境もこの結果に影響しているかと思いますが、以前から市民活動、地域活動が大変盛んな地域でございます。高齢者の方もそうですが、若い方々も文化やスポーツ、福祉活動などに非常に熱心に取り組んでいる地域ということです。そうしたことも要因なのかなと思っております。

川崎市は本年 7 月に市制 100 周年という記念すべき年を迎え、市民の皆さまや企業の皆さまと連携して、さまざまな記念の事業を進めておりますけれども、目玉の一つとして、全国都市緑化かわさきフェアを開催いたしました。この開会にあたって皇室から佳子内親王殿下のご臨席を賜りまして、1 カ月の開催期間の中では 94 万人を超える方のご来場をいただき大変盛り上がっております。来春 3 月 22 日からまた春開催ということで開催いたしますので、ぜひこの機会に川崎市にもおいでいただければと思っております。

全国老人クラブ連合会会長表彰 受章者名簿

(敬称略)

育成功労表彰 (120名)

大物 由明 札幌市老人クラブ連合会副会長
 甲地 春男 青森県老人クラブ連合会評議員
 天内 金也 元 青森市浪岡地区老人クラブ連合会交通部部長
 佐々木 幸初 岩手県老人クラブ連合会副会長
 金野 成雄 岩手県老人クラブ連合会監事
 佐藤 貞子 蔵王町老人クラブ連合会副会長
 佐藤 良一 蔵王町老人クラブ連合会副会長
 岸野 美智子 仙台市老人クラブ連合会副会長
 加藤 高之 仙台市老人クラブ連合会理事
 齋藤 良子 酒田市老人クラブ連合会理事
 荒瀬 美千代 川西町老人クラブ連合会理事
 大塚 弘行 前 福島県老人クラブ連合会理事
 斉藤 洋雄 前 福島県老人クラブ連合会評議員
 岡田 浩 元 茨城県老人クラブ連合会副会長
 村田 昌 茨城県老人クラブ連合会副会長
 植木 重治 栃木県老人クラブ連合会副会長
 大久保ミエ子 高根沢町シニアクラブ副会長
 黛 哲夫 前 群馬県老人クラブ連合会理事
 大川 美知子 群馬県老人クラブ連合会副理事長
 片野 幸子 前 群馬県老人クラブ連合会評議員
 鈴木 助市 鴨川市老人クラブ連合会会長
 相原 勇二 浦安市老人クラブ連合会会長
 黒坂 直哉 千葉市老人クラブ連合会監事
 外山 克己 東京都老人クラブ連合会副会長
 後藤 弘太郎 前 東京都老人クラブ連合会副会長
 高橋 康雄 前 東京都老人クラブ連合会理事
 沼本 光史 前 東京都老人クラブ連合会理事
 加藤 春樹 横須賀市老人クラブ連合会会長
 中村 多美枝 前 真鶴町老人クラブ連合会会長
 桑原 正盈 横浜市老人クラブ連合会評議員
 結城 勝彦 川崎市老人クラブ連合会理事長
 宮川 勝政 川崎市老人クラブ連合会評議員
 太田 節子 新潟市東区老人クラブ連合会副会長
 浅田 清美 富山県老人クラブ連合会監事
 平井 宗壽 前 砺波市老人クラブ連合会会長
 坂下 昭英 前 立山町老人クラブ連合会会長
 右井 重二 朝日町いきいき連合会副会長
 神田 淳一 小松市老人クラブ連合会理事
 竹本 亮二 元 小松市老人クラブ連合会副会長
 廣部 重紀 福井県老人クラブ連合会評議員
 原 榮子 越前町老人クラブ連合会理事・女性部長
 数野 清一 山梨県老人クラブ連合会理事
 植村 詔子 山梨県老人クラブ連合会副会長・理事
 樋代 義男 長野県シニアクラブ連合会副会長
 青木 厚 前 長野県シニアクラブ連合会副会長
 上松 幸恵 岐阜県老人クラブ連合会副会長
 棚橋 靖夫 岐阜県老人クラブ連合会副会長
 加藤 出 中津川市老人クラブ連合会会長
 森 朝子 静岡県老人クラブ連合会評議員
 滝澤 義雄 前 静岡県老人クラブ連合会副会長
 竹本 和彦 愛知県老人クラブ連合会理事
 服部 勲 愛知県老人クラブ連合会評議員
 吉田 清一 港区老人クラブ連合会会長
 浅井 保司 守山区老人クラブ連合会会長
 古庄 憲之 三重県老人クラブ連合会監事
 山本 勝也 前 三重県老人クラブ連合会副会長
 久野 京子 三重県老人クラブ連合会理事
 松田 輝男 滋賀県老人クラブ連合会副会長

藤居 喜久男 前 愛荘町愛知川老人クラブ連合会会長
 橋本 俊次 京都府老人クラブ連合会会長
 武藤 守 前 京都府老人クラブ連合会理事
 川島 康伸 京都市老人クラブ連合会副会長
 藤川 泰 京都市老人クラブ連合会副会長
 門林 淳 大阪府老人クラブ連合会会長
 山田 昭儀 大阪府老人クラブ連合会副会長
 西出 富譽 前 大阪府老人クラブ連合会評議員
 飯田 博一 大阪市老人クラブ連合会理事
 奥野 俊明 大阪市老人クラブ連合会理事
 山本 善雄 堺市老人クラブ連合会監事
 河村 春喜 明石市老年クラブ連合会会長
 稲岡 義則 前 加古川市シニアクラブ連合会会長
 古結 公司 西宮市老人クラブ連合会理事長
 殿界 純子 小野市老人クラブ連合会会長
 中辻 良一 奈良県老人クラブ連合会監事
 中尾 純和 和歌山市老人クラブ連合会顧問
 森本 次一 海南市老人クラブ連合会理事
 川口 昭一 鳥取県老人クラブ連合会理事
 田中 陽子 北栄町老人クラブ連合会副会長
 田村 英則 前 松江市高齢者クラブ連合会理事
 繁定 健三 前 岡山県老人クラブ連合会副会長
 岡 弘 岡山県老人クラブ連合会理事
 沼本 英雄 前 吉備中央町老人クラブ連合会理事
 入澤 桂子 岡山市老人クラブ連合会副会長
 岡野 隆之 広島県老人クラブ連合会評議員
 萩山 丘 福山市老人クラブ連合会監事
 高橋 博 広島市老人クラブ連合会会長
 高畑 太郎 広島市老人クラブ連合会副会長
 原田 邦昭 前 山口県老人クラブ連合会副会長
 藤村 貢 前 山口県老人クラブ連合会評議員
 井原 勝 徳島県老人クラブ連合会監事
 吉尾 さだえ 小松島市老人クラブ連合会会長
 直嶋 伸志 香川県老人クラブ連合会副会長
 好村 昌明 前 香川県老人クラブ連合会理事
 岡本 正満 前 愛媛県老人クラブ連合会理事
 近藤 博昭 四国中央市老人クラブ連合会会長
 山嶋 丈 前 高知県老人クラブ連合会評議員
 中西 金保 高知県老人クラブ連合会評議員
 田中 秀行 筑後市シニアクラブ連合会会長
 龍野 正明 大川市老人クラブ連合会会長
 築地原 米藏 前 みやま市老人クラブ連合会会長
 西畑 イツミ 築上町老人クラブ連合会会長
 戸高 輝美 福岡市老人クラブ連合会理事
 藤原 俊廣 福岡市老人クラブ連合会理事
 城島 信夫 前 佐賀県老人クラブ連合会副会長
 江口 善己 佐賀市老人クラブ連合会理事
 石田 康臣 長崎県老人クラブ連合会評議員
 中尾 正嗣 前 波佐見町老人クラブ連合会会長
 阿蘇品 欣友 熊本県老人クラブ連合会理事
 津出 悦男 嘉島町老人クラブ連合会会長
 後藤 且也 小国町老人クラブ連合会会長
 牧 達夫 大分県老人クラブ連合会会長
 河野 正光 大分県老人クラブ連合会評議員
 森 光昭 宮崎県老人クラブ連合会理事
 青山 辰男 元 宮崎県老人クラブ連合会監事
 北方 睦雄 前 鹿児島県老人クラブ連合会副会長
 栄 富弘 前 和泊町老人クラブ連合会会長

伊佐 真栄 前 沖縄県老人クラブ連合会評議員
 比嘉 勝正 沖縄県老人クラブ連合会理事
 広瀬 哲洋 ブラジル日系熟年クラブ連合会副会長
 金澤 要二 パラグアイ日系老人クラブ連合会理事

女性リーダー育成功労表彰 (52 名)

細川アイ子 北海道老人クラブ連合会女性委員会委員長
 石澤キミエ 青森県老人クラブ連合会女性部委員会部長
 瀬川 愛子 岩手県老人クラブ連合会女性部会長
 吉田 八重子 岩沼市老人クラブ連合会女性部会長
 坂田 祐子 仙台市老人クラブ連合会理事
 松岡 時子 秋田県老人クラブ連合会女性委員会委員長
 石田しづ子 米沢市老人クラブ連合会女性部部長
 石原ヨシ子 矢吹町老人クラブ連合会女性部長
 佐藤 弘子 元 茨城県老人クラブ連合会女性委員会委員長
 星 アサイ 前 栃木県老人クラブ連合会女性委員会委員長
 宮崎 重子 前 前橋市老人クラブ連合会女性委員会副委員長
 百瀬よね子 美浜区老人クラブ連合会女性委員会委員長
 黒澤 夢美 前 東京都老人クラブ連合会女性部部長
 小川 榮子 神奈川県老人クラブ連合会女性会議代表
 泉 智恵 前 横浜市老人クラブ連合会女性委員会委員長
 長谷川サト 前 燕市老人クラブ連合会女性部副部長
 若宮 文子 黒部市老人クラブ連合会女性委員会委員長
 大門ノブ子 前 石川県老人クラブ連合会女性委員
 東山 佳津子 元 上野原市老人クラブ連合会女性委員長
 小坂 美恵子 長野県シニアクラブ連合会女性委員長
 福岡 篤子 かがやきクラブ大垣女性部理事・女性部長
 渥美 みつ 前 浜松市老人クラブ連合会浜北支部会長
 後藤 紀代子 前 稲沢市老人クラブ連合会女性委員長
 宇野 房代 名古屋市老人クラブ連合会女性委員会副委員長
 村尾 満美子 三重県老人クラブ連合会女性委員
 井手口温美 前 亀岡市老人クラブ連合会女性部長
 渡邊 ヒロミ 元 富田林市シニアクラブ連合会女性部会長
 鮫島 一美 旭区老人クラブ連合会女性部長
 米山 智恵子 前 堺市老人クラブ連合会女性部員
 金谷 定女 上郡町高年クラブ連合会女性部長
 重松 桂子 神戸市老人クラブ連合会女性委員会委員長
 藤田 照子 生駒市老人クラブ連合会女性部長
 西川 文子 岩出市老人クラブ連合会女性部部長
 佐竹ふみ代 鳥取県老人クラブ連合会女性委員会委員長
 谷村 悦子 新見市老人クラブ連合会女性委員会委員長
 秋山 佳子 岡山市老人クラブ連合会女性部会長
 清水 富子 広島県老人クラブ連合会女性委員会副委員長
 田中多雅子 元 山口県老人クラブ連合会女性委員会書記・副委員長
 宇山 久子 元 徳島県老人クラブ連合会女性委員会委員長
 夢田千鶴子 さぬき市寒川地区老人クラブ連合会女性部長
 米田美恵子 前 宇和島市老人クラブ連合会女性部長
 山本 幸子 元 高知県老人クラブ連合会女性委員会委員長
 豊福 悦子 前 久留米市老人クラブ連合会女性部長
 山本ミチ子 北九州市老人クラブ連合会女性部会長
 長 ハル 福岡市老人クラブ連合会理事
 高津 万亀代 佐賀県老人クラブ連合会女性委員会委員長
 大淵 公子 長崎県老人クラブ連合会女性部副会長
 松下 睦枝 前 熊本県老人クラブ連合会女性委員
 白根 喜代子 大分県老人クラブ連合会女性委員会委員長
 柿内 芳子 元 宮崎県老人クラブ連合会女性部副部長
 山崎リツ子 前 鹿児島県老人クラブ連合会女性委員会副委員長
 知念 節子 前 与那原町老人クラブ連合会女性部部長

若手リーダー育成功労表彰 (42 名)

足立 千恵子 前 歌市内市老人クラブ連合会若手部部长
 鈴木 重一 青森県老人クラブ連合会監事
 田村 隆義 二戸市老人クラブ連合会若手委員会委員長・副会長
 渋谷 敏子 石巻市老人クラブ連合会女性部長・副会長
 佐々木 茂 仙台市老人クラブ連合会理事
 伊澤 良治 前 高島町老人クラブ連合会若手委員会委員長
 鈴木 勝博 福島市老人クラブ連合会若手委員会委員長
 清水 孝一 宇都宮市老人クラブ連合会副会長
 長谷部 恵美子 群馬県老人クラブ連合会評議員
 亀井 隆行 前 千葉市老人クラブ連合会会長
 佐山 朝子 杉並区いきいきクラブ連合会会長
 高辻 秀樹 神奈川県老人クラブ連合会評議員
 武田 和雄 坂城町シニアクラブ連合会会長
 國枝 芳則 かがやきクラブ大垣副会長・盛年委員会委員長
 川村 洋一 御殿場市老人クラブ連合会副会長
 木全 幹夫 名古屋市老人クラブ連合会監事
 小和田 清二 京都府老人クラブ連合会若手委員会委員
 吉野 博 和泉市老人クラブ連合会若手部部长
 杉田 美奈子 平野区老人クラブ連合会理事
 徳田 進 堺市老人クラブ連合会健康部会長
 谷口 臣司 芦屋市老人クラブ連合会若手委員会副委員長
 濱田 亀志政 灘区老人クラブ連合会副会長
 平尾 昭一 前 鳥取県老人クラブ連合会若手委員会委員
 高木 浩 安来市高齢者クラブ連合会若手委員長
 高橋 三穂 岡山市老人クラブ連合会副会長
 今井 憲治 前 安芸高田市老人クラブ連合会若手委員長
 吉川 徹 西区シニアクラブ連合会副会長
 大寺 健一 山口県老人クラブ連合会若手委員会委員長
 川下 玲子 徳島県老人クラブ連合会若手委員会委員
 松岡 忠 香川県老人クラブ連合会理事
 小屋敷 隆 宇和島市老人クラブ連合会若手委員会委員長
 川村 渡 高知県老人クラブ連合会若手委員会委員長
 川原 唯男 うきは市老人クラブ連合会事務局長
 山中 稔 北九州市老人クラブ連合会副会長
 百田 典光 福岡市老人クラブ連合会理事
 時尾 久美子 佐賀県老人クラブ連合会女性委員
 井上 義啓 前 長崎県老人クラブ連合会若手委員会副委員長
 野中 育代 熊本県老人クラブ連合会女性委員
 伊井 操 津久見市盛人クラブ連合会会長・県老連評議員
 尾割 利秋 前 宮崎市老人クラブ連合会若手委員会副委員長
 満林 春男 前 奄美市老人クラブ連合会若手委員長
 高江洲 義一 沖縄市老人クラブ連合会若手委員長

優良老人クラブ表彰 (63 団体)

札幌市 新川親和会
 青森県 類家五丁目夢くらぶ
 岩手県 小久慈老人クラブ日吉会
 宮城県 千塚なごみの会
 仙台市 郷六老人クラブ朗朗会
 秋田県 大崎老人クラブ
 山形県 釜淵長福会
 福島県 石住とちの実会
 栃木県 美里なごみの会
 群馬県 太田町 第一笑輪会
 群馬県 高別当 高寿会
 埼玉県 砂長寿会
 埼玉県 志あわせ会
 千葉県 老川親老会
 神奈川県 橘ゆうゆうクラブ

横浜市 弥生会
 川崎市 登戸南町福寿クラブ
 新潟県 片辺夕鶴の会
 富山県 吉作長寿会
 富山県 南谷長寿会
 富山県 七美喜寿会
 福井県 日の出さわやかクラブ
 福井県 今庄白寿会
 山梨県 白糸町シニアクラブ
 岐阜県 形野寿会
 岐阜県 西町長生会
 岐阜県 市之倉みどりの会
 静岡県 富士見長寿会
 愛知県 東境東光東クラブ
 愛知県 緒川新田万栄会
 名古屋市 塩池クラブ
 三重県 高松 松寿会
 滋賀県 目川萬寿会
 京都府 南古世らくじゅ会
 大阪府 桜井台悠悠クラブ
 大阪府 みゆきクラブ
 大阪府 寺みどり会
 大阪府 高津豊寿会
 堺市 西陶器老人クラブ松屋会支部星和寿会(むつみ会)
 兵庫県 杉老人クラブ
 神戸市 深江親交クラブ
 奈良県 屏風老人クラブ
 奈良県 エビス会
 鳥取県 荘あすなろ会
 岡山市 花尻親和会
 広島県 中畑宝寿会
 広島市 城山シニアクラブ
 徳島県 石井町 本利寿クラブ
 香川県 神山老壮会
 高知県 いきいきクラブ平田
 福岡県 光陽台1区シニアクラブ光寿会
 福岡県 桜町老人クラブ桜寿会
 福岡市 西新校区 第四白寿会
 長崎県 ときわ会
 長崎県 下大津老人クラブ
 熊本県 宮原5部老人クラブ
 大分県 田島町老人クラブ
 宮崎県 東花ヶ島平寿会
 鹿児島県 護国元気クラブ
 鹿児島県 恋之原高齢者クラブ
 沖縄県 鏡水しみず会
 沖縄県 読谷村儀間光命会
 ブラジル サン・ベルナルド松寿会

優良老人クラブ連合会表彰 (48 団体)

青森県 蓬田村老人クラブ連合会
 岩手県 土淵町老人クラブ連合会
 宮城県 七ヶ浜町老人クラブ連合会
 仙台市 東二地区老人クラブ連合会
 秋田県 東成瀬村老人クラブ連合会
 山形県 山辺町老人クラブ連合会 (きららクラブ山辺)
 福島県 郡山市老人クラブ連合会
 茨城県 笠間市高齢者クラブ連合会
 茨城県 常総市シルバークラブ連絡協議会
 栃木県 足利市シニアクラブ連合会

群馬県 婦恋村老人クラブ連合会
 千葉県 八千代市長寿会連合会
 東京都 大田区シニアクラブ連合会
 東京都 三鷹市老人クラブ連合会
 東京都 世田谷区高齢者クラブ連合会
 東京都 調布市シニアクラブ連合会
 神奈川県 真鶴町老人クラブ連合会
 横浜市 神奈川区シニアクラブ連合会
 川崎市 中央地区老人クラブ連合会
 新潟県 湯沢町老人クラブ連合会
 富山県 悠友クラブ滑川
 石川県 米丸米寿会連合会
 岐阜県 鷺山地区老人クラブ連合会
 静岡県 清水町シニアクラブ連合会
 愛知県 北名古屋市老人クラブ連合会
 愛知県 飛鳥村老人クラブ連合会
 名古屋市 天白区シニアクラブ連合会
 滋賀県 甲良町老人クラブ連合会
 大阪府 大阪狭山市老人クラブ連合会
 大阪府 西成区老人クラブ連合会
 兵庫県 川西市老人クラブ連合会
 兵庫県 稲美町シニアクラブ連合会
 兵庫県 加西市シニアクラブ連合会
 広島県 世羅町老人クラブ連合会
 広島市 吉島学区老人クラブ連合会
 山口県 岩国市老人クラブ連合会美川支部
 山口県 上宇部まだまだクラブ
 徳島県 美波町老人クラブ連合会
 香川県 多度津地区福寿連合会
 高知県 土佐町老人クラブ連合会
 福岡県 糸島市シニアクラブ連合会
 福岡県 行橋市老人クラブ連合会
 北九州市 永犬丸地区シニアクラブ連合会
 北九州市 北沢見地区老人クラブ連合会
 福岡市 城南区 七隈校区シニアクラブ連合会
 熊本県 苓北町老人クラブ連合会
 大分県 由布市老人クラブ連合会
 宮崎県 綾町高齢者クラブ連合会

永年勤続表彰 (20 名)

青森県 長谷川 真紀 十和田市老人クラブ連合会事務職員
 青森県 関 郁子 三沢市老人クラブ連合会事務局長
 青森県 舘 幸仁 おいらせ町老人クラブ連合会事務局副担当者
 福島県 佐藤 勝利 伊達市梁川町寿クラブ連合会事務局長
 福島県 小泉 修平 新地町社会福祉協議会老人クラブ指導員
 横浜市 中村 君江 磯子区シニアクラブ連合会事務局職員
 福井県 大西 典子 元 福井市老人クラブ連合会事務職員
 山梨県 安藤 順子 元 都留市老人クラブ連合会業務主任
 岐阜県 松岡 照子 前 かがやきクラブ大垣事務局長
 京都府 成瀬 弥生 久御山町シニアクラブ連合会事務局担当
 大阪府 今西 亜津子 大阪市老人クラブ連合会嘱託職員
 広島県 若井 聡子 福山市老人クラブ連合会事務局員
 高知県 下元 和香 黒潮町老人クラブ連合会事務局職員
 佐賀県 中野 公利 佐賀市老人クラブ連合会常務理事・事務局長
 大分県 伊藤 美紀 日田市老人クラブ連合会主任
 鹿児島県 野邊みゆき 霧島市老人クラブ連合会事務局職員
 鹿児島県 大久保 茂樹 南大隅町老人クラブ連合会書記会計
 鹿児島県 谷山 宏 喜界町長寿会連合会会計
 沖縄県 禰保 充孝 沖縄市老人クラブ連合会活動推進員
 沖縄県 島 一美 前 宜野湾市老人クラブ連合会事務局長

記念講演

健康寿命の延伸と栄養・食事 (抜粋)

神奈川県立保健福祉大学 名誉学長 中村 丁次

最近、伝統的な日本食はいいというので、古くからある伝統の食事にこだわる人がいますが、これは必ずしも正しくはありません。なぜかというところ、伝統的な食事をしていて、ある意味では質素な、腹八分目のような食事をしてきたときの日本人の平均寿命は50歳でした。そして身長も低く、いろいろな栄養欠乏症に悩まされていました。

皆さんは子どものとき、しもやけやあかぎれになりましたか。だいたい青鼻をたれていて、服の袖がてかてか光っていた。今はあんな子どもがいますか。僕らが子どものとき、蓄膿症というのがありました。副鼻腔というところに膿がたまるのです。今の科学では、これらの原因は全て栄養欠乏症であったことが分かってきました。

特に脂溶性ビタミン、A、D、E、Kという油に溶けるビタミンは、皮膚や粘膜を丈夫にするビタミンです。質素な食事では、油の摂取が少なく、脂溶性ビタミンが不足して、皮膚や粘膜に症状が出ました。

肝油のドロップを覚えていますか。あれは脂溶性ビタミン欠乏症を予防するために、お魚の肝臓から油を取って、砂糖でコーティングして、日本の子どもたちがビタミンA欠乏症にならないようにした政策でした。

おかげでビタミンA欠乏で失明した子どもは、日本ではいないのです。その直前までいった子どもはたくさんいました。夜盲症と言います。薄暗いところでなかなか見えにくくなってきます。それがひどくなると失明します。失明したら元に戻りません。そういう深刻な事態だったので、政府は強制的にお魚の肝臓から油を取って、子どもたちにばらまいたのです。

このように日本は栄養問題には悩まされた国でした。島国で農耕面積が狭いのですね。そして日



本は常に台風や水不足で悩んで、食料を安定的に供給することができませんでした。この小さな国土の中でたくさんの人口を支えなければいけないから、一人一人は栄養不足になったわけです。

人間の食欲はどこから出るかというと、胃からは出ないのです。大脳の下の間脳のところに食欲中枢というのがあります。脳下垂体視床下部というのですが、そこに満腹センターと摂食センターという食欲を頑固にコントロールするところがあります。そこには大脳からのいろいろな情報が影響して、皆さんが心配事をしたり不快なことがあったりすると食欲中枢に影響が及び、食欲がなくなってきます。

だから、皆さんが食事をするとき、特に他人と食事をするときには、不快になる話はしないこと。人の悪口はまず言わない。楽しく食事をしていくことが食欲を増すのに大きな力になりますので、これは心得てください。

嫌いだが、今日は食べたくないのだが、なんかおいしそうだ、面白そうだ、栄養になりそうだ、頭がよくなりそうだ、これを食べると元気になるかも分からない。このように考えることは大脳の作用です。こういう前向きな情報を大脳に与えれば、食欲は出てきます。

『臨床栄養学者中村丁次が紐解くジャパン・ニュートリション』(第一出版)の触りだけをお話させてもらったのですが、この本をぜひ読んでください。これは今、英語版も出て、中国語版も出て、いろいろな国が翻訳し始めています。この本には正しいことしか書いてありません。ぜひ読んでいただければありがたいと思います。

活動発表「地域の仲間と取り組む老人クラブ活動」



司会：楠 静子（川崎市老連副理事長）

1日目は、「地域の仲間と取り組む老人クラブ活動」をテーマに活動発表を行いました。「地域共生社会」の実現に向けた取り組みが広がるなか、老人クラブ活動も地域の多様な関係者と広く展開していくことが求められています。そこで、本大会では、地域の関係者とともに活動に取り組んでいる3団体による発表とコーディネーターの齋藤ゆか氏によるまとめを行いました。

■おしゃれして集うみんなのにこにこデイ

神奈川県藤沢市柄沢北部喜楽会副会長 大野美紀

藤沢市老連がみずほ教育福祉財団助成事業に応募したことをきっかけに、令和5年9月、何でも話せる語らいの場、食を共にしてのやすらぎの場、「にこにこデイ」をスタートしました。対象は、会員に加えて歩いて集える範囲に住んでいる地域の一人暮らしや高齢者世帯の方。毎月25日（10時～13時）に開催し、タイムスケジュールに合わせて、体操、歌、おしゃべり、健康チェックを行い、ランチタイムとしています。

会場は少人数の座席配置とし、テーブルには自宅から持ち寄った花を飾り、アットホームな雰囲気となるよう考えています。さらに、参加したみんなが主役となれるように、スタッフをコンシェルジュ役として配置しています。スタッフ（会員）は、揃いのエプロンを着けて1時間早くに来て準備、終了後は片付け、掃除、反省会を行って14時に解散となります。この他、会場の町内会館にのぼり旗を設置したり、チラシや市老連のホームページを活用してPRに努めています。

参加者からは、「にぎやかに話ができて元気に



なれた」「また来たい」と言われています。奥様を亡くされた方が会員の声かけにより参加されるようになり、参加を重ねるうちに表情もいきいき

として来て、おしゃれをして参加されるようになったことはスタッフの大きな喜びです。課題であった2年目からの運営費用は、藤沢市の愛の輪福祉基金に申請が通りました。今後は他団体との連携をめざしたいと考えています。

■「もとき健康道場」で話・輪・和

川崎市川崎区元木1・2丁目町内会老人会
「百々世会」会員（町内会長） 飯島元和

百々世会は、町内会の下部組織として昭和30年代に設立し、町内会と共に活動しています。現在、町内会は高齢者のひとり暮らしの増加、住民の高齢化により多様な困りごと、コミュニティの希薄化などの課題解決に向けて取り組んでいます。

●「もとき健康道場」（コミュニティと健康維持）

目的は、高齢者なら誰でも参加できる場をつくって、スポーツや趣味を通じてコミュニケーションの機会を増やして健康になってもらうことです。毎週開催の①ウォーキング&ティータイム、②ストレッチ教室、③グラウンド・ゴルフ、月1～2回開催の④麻雀、⑤スマホ教室があります。

●「もときよろず相談応援隊」（みんなで支え合う住みよい町内会）

介護に関する相談、リフォームの相談、その他一人暮らしの困りごとなど、地域包括支援センターをはじめ町内会の役員等が対応しています。

●「もとき食堂」（会員相互の親睦を深める）

カレーライス（400食）とおもちの日（27升）を設け、配食や食事コーナーで提供しています。

活動を地域包括支援センターや民生委員など地域の関係者と連携して取り組むことで、要支援の方の参加や高齢者が苦手な介護保険の申請手続きの相談、欠席時の電話や食事を届けることが安否



確認にもつながっています。人との交流の「話」が、人と人とのつながりの「輪」を広げ、「和」気あいあいと過ごせる町づくりにつながる。励まし合い、助け合う町づくりを目指しています。

■いきいき百歳体操と北サロンの取り組み～健康で老いるための地域共生社会の実現

奈良県生駒市鹿ノ台北桜美会会長 川村喜紀

北桜美会は、約10年前、会員増強運動として楽しい行事をいろいろ増やし、5年間で5倍の216名になりました。この間取り組んだ、いきいき百歳体操、健康マージャン、誕生会、クニちゃんサロンなど8種類の行事が定着しています。

生駒市と市老連が協働して取り組んだ通いの場の取り組みを受け、自治会員にもPRして毎週金曜日の午後1時から30分「いきいき百歳体操」を実施。その後、地域に目をむけ、交流拠点となる「北サロン」の開設に向けて、自治会長や住民代表などからなる「北集会所運営管理委員会」をつくり、生駒市の財政支援を受けて集会所を改造して北サロンを立ち上げました。そして、サロンを通じた交流から、子供たちとの世代間交流や会員外の人との交流活動（お庭拜見）など、住民主体の活動につながっています。

また、「健康で老いる」ことをテーマに、一ヶ月の『健康で老いる』プログラムを作りました。内容は、いきいき百歳体操の他、3種類の体操、歌、ゲーム、体力測定、健康学習（講座、講演会、情報発信）です。月報での情報発信はSNS（LINE）を活用しています。評判を聞いて集まる人が増えて加入促進につながっています。

プログラムの充実や地域に開かれたクラブづくりを進める上で、多様な団体との連携が必須となるなか、新たな課題も生まれています。こうした課題を解決し、地域共生社会の実現に参画してい



こうと考えています。

コーディネーターまとめ

老人クラブ活動で「いきいきと生きる」

コーディネーター 神奈川大学教授 齊藤ゆか

「いきいきと生きる」、これはまさに老人クラブがやっていることです。活動に「いきいき」と取り組むことが、みなさんの元気になっていると思います。3人のお話の中から、「楽しい活動をする」ということと、「好奇心を大切に、どんどん突き進んでいく」ということには「いきいきと生きる」という共通点があると思いました。

そして、3名のリーダーの大きな共通点が「あきらめない」ことです。2020年に起こったコロナという感染症は脅威でした。活動を中止して、人と人とのつながりを絶ったところもたくさんあったと思います。しかし、みなさんはあきらめることなく活動を続けてコロナの危機を乗り越えてこられた。「人とのつながり」がとても大事だとわかってきたからそうされたのだと思います。

●人とのつながりを大事にする

「つながる」ための手ごかりは小さな集いを定期的に行うこと



です。ここに来ておしゃべりしようとか、運動をみんなでいっしょにやろうと考えるようになり、「この時間、あそこに行こう」というのが一つの生活習慣になっていきます。そこには、高齢者が行きたくなるプログラムの工夫があります。①マンネリ化を防ぐ、②若い世代（子供や学生）とつながる、③いろいろな相談に乗る、④社会とつながる。

私はボランティアの専門家ですが、ボランティアは活動することが大事なのでなく、優しい声かけをすることが一番大事だと思っています。「こういうことをしているから来ませんか？」と、優しい言葉をお互いにかけることで、「生きるってことがいいな」と思える人が地域が増えていくんじゃないかと思っています。

参加者の声

みんなで祝った初代若手委員長の表彰

山形県きららクラブ高島（町連合会）
若手委員会委員長 武田 浩二

わが町の初代若手委員会委員長が「若手リーダー育成成功労表彰」を受章したので、これまで一緒に活動してきた仲間と全国大会でお祝いしようと記念旅行を計画、初めて参加しました。わが若手委員会は、超高齢化社会を迎える中で地域の老人クラブ存続が危惧されていることから、今後、会員を増やすにはどのような活動を展開すればいいのか常日頃考えていました。全国事例で学習し、さまざまな情報を得ることが出来たので今後の活動に役立てたいと思いました。

老人クラブのエネルギーの源を実感

神奈川県老人クラブ連合会
理事・女性会議代表 小川 榮子

全国から神奈川県へお越しお越しくくださった老人クラブ役員の間際の足並みの力強さと活力を感じ、これが老人クラブ活動を続けているエネルギーの源なのだなどと感動を覚えた2日間でした。

全国各地の3つの活動発表では、変化の激しい現代にあって、高齢者が求めているものを模索

し、地域の福祉団体や行政も巻き込みながら、身近な地域の中で、長寿社会の生きがいと交流の場づくりに実践されている熱い思いが伝わってきました。

そんな皆様に、少しでもリラックスしていただくこと、横浜発祥のジャズ演奏もお届けしました、ご堪能いただけたでしょうか。神奈川大会の良き思い出となったことを願っています。

大任を果たして今後につなぐ

川崎市老人クラブ連合会副理事長 楠 静子

今回、私は、初日の司会を担当することとなって、自分でも驚いていましたが、皆様のご協力のおかげで、なんとか無事に大任を果たすことができました。

感想を申しますと、本番前大変緊張していましたが、関係者の皆様に丁寧にご指導いただき緊張がやわらいだことと、多少失敗はあったものの最後までやり遂げたことが、今後の自信につながったような気がします。改めまして、関係者の皆様や全国からのご参加の皆様に感謝申し上げますとともに、今後の皆様のご発展をお祈り申し上げます。



大会を終えて



神奈川県
老人クラブ連合会
理事長
安藤 正義

“のぼそう！健康寿命、担おう！地域づくりを”をテーマに、第53回全国老人クラブ大会が2日間の日程を無事終えることができました。準備と運営にご尽力いただいた関係者の皆様にあらためてお礼申し上げます。

超高齢社会にあって、私たち高齢者の生きがいづくりは、日本の未来に幸福な社会を築くことに繋がるひとつのチャレンジだと感じています。

一人暮らしの高齢者が増えています。昨年には、孤独・孤立対策推進法も施行されました。少年も若者も孤立と孤独を感じている社会なのでしょうか。

そんな社会にあって、老人クラブが一つの核となって、人と人が支え合える心豊かな社会を作っていくべきではないでしょうか。認知症の人も周りの人の接し方ひとつで、心豊かな気持ちになれるはずで

す。“地域共生社会の実現”をキーワードに、地域の様々な団体や組織と力を合わせながら、世界に冠たる先進高齢社会を目指したいと思っています。

そんなことを思った全国大会でした。皆様、お疲れさまでした。



川崎市
老人クラブ連合会
理事長
結城 勝彦
第53回全国老人

クラブ大会は、全老連、神奈川県老連から大会開催のお誘いがあり、川崎市老連を含め三者による共同開催となりました。短い期間でしたが、実行委員会を立ち上げ、準備を進めてまいりました。その間、トートバッグのデザインや地元開催のアトラクションの検討を行うとともに、当日の大会運営のスタッフの選出などの準備を行い、大会の日を迎えることができました。

大会は、全国から1,254名の皆様のご参加をいただき、多大な成果をおさめ、盛会裏に終了することができました。関係者の皆様と全国の皆様に心からのお礼と感謝を申し上げますとともに、次回、茨城県大会の成功をお祈り申し上げます。

